

生活科 2年	ね ら い	地域の人たちと関わり，宮野目のよさを知り，地域を大切に思う気持ちをもたせる。
-----------	-------------	--

【題材】 地域の人々となかよくなる

～生活科「宮野目地区探検」の指導を通して～

【復興教育の視点】

- ・探検をして宮野目の人々とかかわり，宮野目のよいところを見つけよう。
- ・宮野目地域の人々となかよくなる。

【具体的実践（生活科 16時間扱い）】

<活動1>

①郵便局・お店探検とカードにまとめる学習（7月3日 4時間）

ア、ある物から見つけよう学習

老眼鏡，ソファ，大きな冷蔵庫部屋，品物の並べ方などから宮野目の人々が使いやすいように工夫していることに気付いた。

イ、働いている人々から見つけよう学習

働いている人々から，地域の人々から喜んでもらえるように考えて仕事をしていることを話していただいた。実際にお店で買い物をして，店員さんが丁寧な言葉遣いをしていることを感じとらせることができた。

郵便局の仕事を3人で協力して進めていることを話していただいた。

②探検お礼の手紙を書く学習（1時間）

③宮野目探検発表会（1時間）



<活動2>

①新花巻駅・童話村探検とカードにまとめる学習（9月25日 6時間）

ア、ある物から見つけよう学習

待合室，ベンチ，時刻表，トイレ案内板，点字，安全扉などから宮野目地区の人々が使いやすいように工夫していることに気付かせることができた。

イ、働く人々学習

駅の仕事を6人で協力して進めていることを話していただいた。

宮沢賢治さんが作曲した音楽を流したり，たくさんの童話を楽しい展示にしたりしている。

②探検お礼の手紙を書く学習（1時間）

③宮野目探検発表会（1時間）



<活動3>

①デイサービス訪問（10月22日1時間）

「おもちゃフェスティバル」をした。家の中にある捨てられる物を使って、子どもたちがおもちゃを作り、施設の皆さんと遊んだ。宮野目の人々と仲良くなろうとする気持ちをもたせることができた。

①自己紹介②おもちゃの紹介（材料・作り方・遊び方）③遊ぶ ④挨拶と握手

②カードに絵と感想でまとめる学習（1時間）



【成果と課題】（○成果、●課題）

- 実際に郵便局やお店で、地域の人々を大切に思うお話を聞くことができた。
- 探検の打ち合わせの時、学習のねらいも地域の方に伝えておいたので、児童にも分かりやすいお話を頂くことができた。
- 探検で学んだことから地域の人々と仲良くなろうとする気持ちをデイサービス訪問で実践できた。
- 郵便局探検の時、ポストに手紙を入れ、気持ちを伝え合う楽しさも感じさせたいと思った。

総合3年	ね ら い	(3) 自他を大切にする(関わる) 郷土に愛情と誇りをもち、美しい自然、伝統行事・芸能、温かい人のつながりがある社会や町づくりに関心をもつことができる。
<p><b>【題材】</b> 宮野目を再発見しよう</p> <p><b>【復興教育の視点】</b> 地域の人たちと関わり、地域のよさを知り、地域への愛情を深めることによって、郷土を愛する態度を育成する。</p> <p><b>【実践の概要】</b> 宮野目に伝わる伝統芸能「下似内神楽」をとおして、自分たちの地域を知り、そのよさを見つける活動をする。</p> <p><b>【実践の詳細】</b></p> <p>(1) 学習発表会オープニングセレモニーでの下似内神楽との出会い 10月13日(土)、学習発表会のオープニングセレモニーで、下似内神楽の「鶏舞」を鑑賞した。鶏の被り物をかぶり美しい衣装を身に着けて、お囃子に合わせてしなやかに舞う姿に見入ったひと時であった。 鑑賞後の感想には、きれいな衣装だったこと、難しそうな踊りだということなどの他に、鶏の模様は何か意味があるのかなどの疑問点も書かれていた。</p> <p>(2) 似内さんの講話 10月30日(水)、下似内神楽保存会の会長である似内さんをお迎えし、下似内神楽についての講話をいただいた。由来、活動、演目、衣装と道具、幕など、資料や実物を見せてもらい、詳しい説明を聞いた。お面や衣装などを身に着けさせてもらい、神楽への関心がさらに高まった。また、保存会に所属している3年生が1名いたので、似内さんは、その児童と一緒にある演目の一部分を実際に舞って見せてくれた。保存会の人たちが受け継いできた神楽を、次の世代に伝え、将来もずっと下似内神楽が続いていくことを願っている似内さんの思いを、講話や実際に舞う姿から感じ取ることができた。</p> <p>(3) お礼の手紙 11月、似内さんにお礼の手紙を書いて送った。手紙には、神楽について詳しく知ることができてよかったこと、長い間続いてきた下似内神楽をこれからもずっと続いてほしいことなどが書かれてあった。似内さんからは、保存会に所属する児童をとおして、手紙への返事をいただいた。</p>		

#### (4)「下似内神楽」について調べたことのまとめ

11月～12月、総合的な学習の時間の学年統一テーマを、「宮野目に伝わる伝統芸能のよさを見つけよう。～下似内神楽をとおして～」とし、下似内神楽について調べて分かったことを紙面にまとめる活動を行った。

##### <まとめたもの>

- ・由来
- ・演目
- ・衣装
- ・道具
- ・保存会の活動
- ・似内さんの願い
- ・感想



##### <児童の感想から>

私は、神楽の意味を知らなかったもので、こんなに深い意味があったんだと思いました。私の住んでいる「花巻」に、こんなに素晴らしくて自慢のできる伝統芸能があって、とてもうれしかったです。

神楽のことをもっと知りたいと思いました。私が大人になっても残ってほしいと強く思いました。

宮野目に神楽がなくなると、とてもさびしいので、これからもたくさん下似内神楽をやる人が増えてほしいと思いました。そして、日本にほこれる花巻の神楽にしたいです。

宮野目にこんな神楽があって、宮野目に生まれてきてよかったと思いました。大人になったとき、もし神楽がなくなっていたら、何か物足りないだろうと思いました。

##### 【成果】

- ・地域の伝わる伝統芸能のよさについて考えるようになり、地域に愛着を持つようになった。
- ・地域を愛し、そのよさを神楽をとおして伝えようとしている方々のすばらしさに気付くことができた。

総合 5年生	ねらい	(3) 自他を大切にする(関わる) 地域のよさを知り、家族や友達とのつながりを通して、感謝の気持ちと思いやりを育てる。
-----------	-----	--

【題材】 一探ろう！地域の食文化ー

【復興教育の視点】

「いわての復興教育」では、「郷土を愛し、その復興・発展を支える人材を育成するために、3つの教育的価値を各学校の教育的活動を通して子どもたちへ身に付けさせること」としている。

そこで、本校では、視点3である「自他を大切にする【関わる】」をキーワードとし、地域と関わる(地域のよさを知る)、家族と関わる(家族の愛情を考える)、友だちと関わる(喜びを共有する)ことを通して、働くことの大切さと仲間や地域の人々と心がつながる喜びを体感すると共に、感謝の気持ちと思いやりの心に満ちた子どもの育成をめざすものである。

【実践の概要】

田植えから収穫までの米づくり活動は、これまでも本校で取り組んできた勤労観を育みながら、農産業に対する興味・関心を高め、それらの歴史的な背景や特徴に気付くことから行ったものである。

郷土食のもつよさとそれを支える人々との交流の活動は、地域に住む方々や祖父母と聞き取り調査などの活動を通して直接関わり、学習発表会で発表することにより、地域のよさや家族への感謝の気持ちを自分なりの言葉で表現するものである。その実践のために以下の3項目を設けた。

- (1) 郷土の食文化・農産業に対する興味・関心を高め、それらの歴史的な背景や特徴に気付くことができる。
- (2) 友だちとの関わり、講師の方々との関わりからコミュニケーション能力を高めることができる。
- (3) 食の大切さと生産・調理の活動から心がつながる喜びを体感すると共に、感謝の気持ちと思いやりの心に満ちた子どもの育成をめざす。

【実践の実際】

**実践1 「農業体験学習」5月11日 田植え**      **実践2 「郷土食への思いを知る」9月 7日**  
 講師 株式会社「道興」会長 阿部 姜子氏



**実践2 「岩手や花巻の郷土」学習会 10月 2日**

講師 岩手県立総合教育センター 研修指導主事

総合教育センターの川内先生を講師にお願いして雑穀のもつ栄養価と岩手の食文化について学習するとともに、伝統食が残っていることの意義や生産者の方々の願いを考えることの大切さについて話していただくことにより、調べ学習のきっかけとした。







<川地先生との学習会を受けた郷土食  
についての発展学習の取り組み>

目標は、「オリジナルわんこ」をつ  
くることであり、学習した内容のう  
ち雑穀については必ずふれること、雑  
穀や材料のもつそれぞれの栄養価に  
ついては各自で調べてまとめること  
を指示して取り組ませた。表紙は「オ  
リジナルわんこ」のPRとして工夫  
させた。



郷土食と雑穀についての調べ学習の成果

実践 3日

ディレクター17: 「こびり」って何ですか？

おばあさん: 「こびり」知らないの？

「こびり」っていうのは、10時や3時のおやつみたいなもので、農作業のあいまに、お茶請けとして  
食べる物を「こびり」っていうんだよ。

こちら辺にはたくさんのこびりがあるんだよ。

子ども26: へえ。おもしろそう！どんな「こびり」があるか、調べてみようか。

子ども27: わたしは、他の花巻の食べ物についても調べてみよう。

子ども28: というわけで、私たちは地域の人やお家の人たちに話を聞いてみました。

子ども29: 聞いていくと、こびりはたくさんの種類がありました。

子ども30: 例えば、がんづきや みそおにぎり（・・・←調べた分）などです。

子ども31: その内容などから、おいしさだけではなく、栄養や腹持ちのよさなど、食べる人のことを考え、作られ  
ていることがわかりました。

子ども32: また、それらのなかには、雑穀を使った料理もありました。

子ども33: みなさん、知っていますか？花巻市は、雑穀収穫量日本一の町なんです。

<まとめ> 児童の感想『学んだことは、自然とのつながり、仲間とのつながり、食とのつながり  
です。ぼくは、このつながりを通して大切なことを知りました。これからもつながりを大切にして  
いき、命ある食べ物をいただいて今の自分があることを感謝していきたいです。』のように、子  
どもたちはつながりを感じ、考えることができた。

生活科 第1学年	ね ら い	家庭生活を支えている家族や自分でできることなどについて考え、自分の役割を積極的に果たすとともに、規則正しく健康に気をつけて生活することができるようにする。
-------------	-------------	---

【題材】みんないっしょに

【復興教育の視点】

- ・自分でできることを考え、自分ができるところをきちんとやるとともに、家庭の中で自分の役割に気づき、家庭での一員として仕事に取り組むことができる。

【実践の概要】

じぶんの1日をふりかえろう

家庭における自分の1日の生活を見直し、規則正しく健康に気をつけて生活することができるようにする。

いえの人といっしょにしよう

家の人や自分がしているしごとや趣味のことを振り返り、その中から一緒にできることを考えて、実際に取り組み、家の人と過ごす楽しさが分かることができるようにする。

じぶんでできることをしよう

家の人のために自分でできることを考え実行する中で、家庭生活が家の人に支えられていることと家庭の中での自分の役割に気付くことができるようにする。

ありがとうをとどけよう

家の人的心愿いに気付くとともに、これからも、自分の家庭での役割を積極的に果たそうとする意欲をもつことができるようにする。

【実践の詳細】 (全9時間)

「じぶんの1日をふりかえろう」(3時間)

- ・朝起きてから寝るまでの1日の生活を振り返り、ワークシートにまとめる活動を通して、自分の1日の生活に関心をもつことができた。規則正しい生活についても考えることができるようになった。早起きや早寝、歯みがき、食事は元気に生活するためにしていることに気付くことができた。
- ・友達とワークシートを見せ合うことで、友達と似ていることがたくさんあることに気付いて話すことができた。
- ・家で一人でしていることと家の人と一緒にしていることがあることに気付くことができた。

「いえの人といっしょにしよう」(3時間)

- ・家の人と一緒にしていることについて考えて発表した。
- ・家の人と一緒にしたことの中で、楽しかったことや嬉しかったことについて話し合うことで、家庭の温かさについて考えるようにした。

「じぶんでできることをしよう」(3時間)

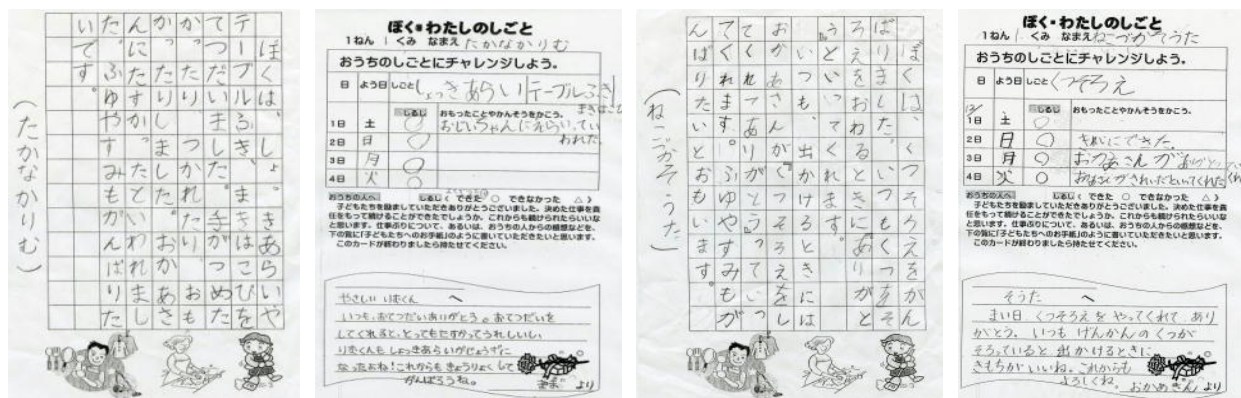
- ・教科書の写真などを参考にしながら、自分でできる仕事について考えて、家で実行し、カードに記入して発表した。



- ・これからも続けたり、新たなことに挑戦したりしようとする意欲を高めることができた。
  - ・家族で分担した仕事を1週間続けるので、励ましや声かけをしてほしいと家庭にも連絡し、協力を得ながら取り組むことができた。やった仕事や感想などをカードに記入するようにした。
  - ・次の1週間は、無理なく続けられる仕事を1つ、家族で相談して決めて取り組むようにした。感想などを毎日カードに記入するようにした。
  - ・続けてがんばった仕事を友達と紹介し合った。
- 「ありがとうをとどけよう」(3時間)
- ・子どもたちの仕事ぶりについてや感想などを「子どもたちへのお手紙」にして家の人に書いてもらった。子どもたちは、それぞれ喜んで読んでいた。
  - ・手紙を読んだ後に、家庭生活を支えてくれている家の人へ、感謝の気持ちやこれからがんばりたいことを手紙に書いた。
  - ・冬休みも続けてがんばりたいという内容の子が多かったので、冬休みのめあての1つとして、みんなでそれぞれ決まった仕事に取り組むことにした。

《 家の人からと児童の手紙 》

【考察】



- ・児童が、家の仕事をするのが少なくなってきた。この活動は、児童が、自分も家のしごとをしてみようかなというきっかけになった。「自分でもできる仕事がある」「やってみると楽しい」ということが実感できた。家の人と遊んだり、仕事をしたりする中で、家の人のおよさや温かさ、仕事の大変さなども感じる事ができたようである。冬休みもよく取り組んだと、家の人からたくさん感想を寄せられてよかった。
- ・家庭の声かけや励ましのおかげもあり、ほとんどの児童が意欲をもって家庭の一員として、自分の仕事に責任をもって取り組むことができた。励ましたり誉めたりすることが、意欲を持続させるために大きな力となったと思う。あらかじめ、協力が得られるように家庭に連絡をとっていたので、協力的な家庭が多くありがたかった。
- ・本単元は、具体的な活動は、家庭で行うことが多いのでお互いの活動は見られない。お互いの学びを共有する機会をと思い、朝の会でミニ報告会を開いたり、実践したことを表現したカードを掲示したりした。友達の活動に関心をもったり、自分の活動を振り返ったりすることができた。
- ・家庭の実態は様々であり、厳しい家庭環境におかれている児童もいる。プライバシーに配慮して、それぞれの家庭の違いやよさを認め、児童が自分の家庭の温かさやよさに気付けるように個に応じた支援も進めてきた。